

金型の設計・製作とプレスが中心の金属加工会社。薄板加工を得意とし、アルミ材からつくる冷却プレートやフィンの精度、デリバリ能力は顧客から厚い信頼を得ている。本格的な自動機の製作も行える等、幅広い展開能力も強みだ。

有限会社東栄技研製作所

金型会社で腕を磨き、起業

(有)東栄技研製作所の設立は1970年。東京都墨田区にある金型会社で経験を積んだ武井榮氏(現同社会長)が独立。個人企業として旗揚げした後、法人化した。初めは墨田区の自宅兼工場で作っていたが、手狭になったため、故郷の茨城県真壁郡関城町(現筑西市)に工場を建てた。会社設立当初は金型の設計・製作をメインとしたが、金型をつくって納めても顧客から「上手く回らない」と言われることがあったため、中古のプレス機を購入し、部品をつくって納める体制をつくった。1991年に同じ市内の現在の場所に工場を移転し今日に至っている。

令和の幕開けとともに代替わり

同社は2019年、令和の幕開けとともに事業承継を行い、創業者の長女である武井三佳氏が社長、榮氏が会長にそれぞれ就任した。三佳氏(以下、武井社長)は両親が働く姿を見て育ち、成人してからは自らも戦力となって働いた。

「『将来は自分が継ぐのかな』と思っていたので、先代から告げられた時も、抵抗感はありませんでした。私は長年、経理を担当していて、技術については詳しくありません。ただし、当社には工場長をはじめ技術に強い人が大勢いるため、まったく不安はなかったです。むしろ、経営的な観点からは、私のキャリアを生かせるのではないかと思います」と武井社長は話す。



▲ NC1-60トン~200トン5台ライン